

予算常任委員会教育民生分科会

(平成28年3月2日)

○ 伊藤嗣也委員長

それでは、昨日に引き続きまして、ただいまから予算常任委員会教育民生分科会を開催いたします。

当委員会におきましては、本日はインターネット中継を行っております。ご協力いただきますようお願いいたします。

それでは、本日は、議案第107号平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）の教育委員会所管部分に関する議案の審査から行ってまいります。

教育長から一言どうぞ。

○ 葛西教育長

おはようございます。きのうは当初予算の審議、どうもありがとうございました。きょうはそれに引き続き、補正予算、それから協議会となります。どうぞご審議のほうよろしくお願いいたします。

○ 伊藤嗣也委員長

ありがとうございました。

議案第107号は追加上程された議案でありますので、まず最初に議案の説明を受け、その後、質疑に移りたいと思います。

議案第107号 平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第10款 教育費

第1項 教育総務費（関係部分）

第2項 小学校費

第3項 中学校費

第5項 社会教育費

第6項 保健体育費

第2条 繰越明許費の補正（関係部分）

○ 伊藤嗣也委員長

それでは、議案107号平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）につきまして、説明を求めます。

○ 上浦学校教育課長

学校教育課長の上浦です。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、まず、2月補正予算参考資料（第8号）、これによってご説明を申し上げますので、よろしく申し上げます。その28ページでございます。

○ 伊藤嗣也委員長

ちょっと待ってください。資料のほうはよろしいでしょうか。皆さん、よろしいでしょうか。

いいですか。それでは、説明をお願いいたします。ちょっと待ってください。もう少しお待ちください。皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、お待たせしました。よろしく申し上げます。

○ 上浦学校教育課長

それでは、28ページのほうをごらんください。

要保護準要保護児童就学援助費の小学校費でございますけれども、このことに関しましては、先日ご説明申し上げたのですけれども、内容について一部訂正がございました。正誤表をまたお配りはしたのですけれども、小学校の認定者数を記載すべきところを、誤って中学校の認定者数を記載しておりました。申しわけありませんでした。認定者数、そこに1078名、当初見込みが1030名と書いてあるのですけれども、これが1762名、当初見込みが1528名というふうに訂正をさせていただきます。本当に申しわけありませんでした。なお、補正予算額に変更はございません。

それで、今回、500万円の増額補正をお願いするものですけれども、その理由は、そこにありますように、認定者数が当初の見込みを234名上回ったことによるものです。これは平成23年度、認定者数が1825名おったのですけれども、そこから減少しているということで、平成26年度、1713名でございました。それにしてもちょっと低く見積もり過ぎたか

なという面もございます。申しわけありませんでした。500万円の増額補正のほうをよろしく申し上げます。

続いてよろしいでしょうか。

○ 伊藤嗣也委員長

どうぞ。

○ 上浦学校教育課長

続きまして、29ページ、中学校給食事業費でございます。今回は、調理・配送業務量が当初の見込みを下回ったということで、4000万円の減額補正をお願いするものです。中学校給食につきましては、当初予算額で喫食率25%と見込んでいたのですが、結果的に20%台になる、そういう見通しです。本事業の総予算が2億3000万円ですが、そのうち調理・配送業務は約2億円でございます。それで、大体5分の1程度が不用になるというふうなことで、2億円の5分の1に当たる4000万円の減額補正として計上いたしました。

このデリバリー給食につきましては、20%、一定の人数はあるんですけども、以前から利用率が少ないということで、改善に努めています。ただ、なかなかふえていかないというふうな現状でございます。これはまた協議会でも報告をさせていただきますけれども、中学校給食検討会、ここでも改善の方向を議論していただきました。それを踏まえて、今後も改善の取り組みを進めていきたいというふうに考えております。減額補正のほう、お認めいただくよう、よろしく申し上げます。

続きまして、30ページでございます。特別支援教育就学奨励費の中学校費でございます。この事業は、特別支援学級に通学する児童生徒等に対して、経済的な負担を軽減するために学用品費等を援助するものでございます。今回は、対象生徒数、当初の見込みを上回ったということで、増額の補正をお願いするものです。直近の3年間、103名、90名、88名と少しずつ減少していたということもありまして、当初90名と見込んでおりました。ところが、現状の対象生徒数、113名になる、そういう見込みでございます。したがって、不足が生じたので、110万円の増額補正をお願いしたいというふうに思います。

以上です。

○ 松岡教育総務課長

教育総務課の松岡でございます。

続きまして、予算常任委員会資料、教育委員会の冊子をご用意いただきたいと思いますのですが、予算常任委員会資料平成27年度一般会計補正予算（第8号）と書いたものでございます。

○ 伊藤嗣也委員長

資料は皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、説明をお願いいたします。

○ 松岡教育総務課長

それでは、資料の4ページをお開きになっていただけますでしょうか。よろしいですか。4ページをお願いいたします。退職手当でございます。2の内容のところをごらんになっていただきますと、勸奨退職者、これ、当初見込みより3人少ないということ、それから、普通退職者が4人多かったということから、4000万円の減額補正をお願いするものでございます。

次に、資料の5ページ、学校管理運営費でございます。一般管理運営費でございます。ここは給食調理補助の離職について、一度、今年度募集をしても応募がない期間が発生してまいりました。このため勤務実績が減少しましたことから、560万円の減額補正をお願いする、こういうものでございます。

私からは以上でございます。

○ 下里教育施設課長

教育施設課長の下里です。

同じく予算常任委員会資料の6ページをお願いいたしたいと思います。笹川中学校改築整備事業につきまして、27年度におきまして入札差金が出ましたために、1500万円の減額補正をお願いしたいと。内訳としましては、大きくいきますと、入札差金が4700万円ほどございます。笹川中学校はかなり地層が波打っています関係で、1本ずつくい、地層を確認しながらやりましたところ、約2000万円ほど増額変更が生じる。中学校のつり天井のほうの対策のほうで思ったより金額がかかりましたので、そちらのほうに1250万円を利用させていただきまして、残りの1500万円を今回、減額補正させていただきたいと思うとい

うことであります。

以上でございます。

○ 上浦学校教育課長

続きまして、7ページをごらんください。教育事務システム運営費でございますけれども、これは予算の支出処理、それから、庶務等の学校事務用として、教頭及び事務職員にパソコンを配備して、効率的な学校運営を行うよう、そういうふうに行っているものです。

これ、平成27年度には、以前の契約切れに伴いまして、6月1日から平成32年5月31日まで、5年間のリース契約を新たに結びました。契約に当たりまして入札差金が生じたので、380万円の減額補正をお願いするというものでございます。よろしく申し上げます。

○ 廣瀬指導課長

続きまして、8ページをお願いします。指導課長の廣瀬でございます。

自然教室の事業に係るバス代についてです。小中学校の自然教室について、バスの送迎をしておるわけですが、平成26年4月に新料金制度が国土交通省から示されまして、その上限で見積もりをとらせていただいたところ、片道4万4000円で見積もりをとらせていただいて、予算をいただいたのですが、実際の契約額が下がったことで入札差金が出ましたこと、それから、学校の利用実績が見込みより下回ったことで、510万円の減額補正をお願いするところです。

説明は以上でございます。

○ 伊藤社会教育課長

社会教育課、伊藤でございます。

引き続きまして、9ページをごらんください。埋蔵文化財発掘調査受託事業費でございます。この事業につきましては、北勢バイパス建設事業計画地内にごございます遺跡の発掘調査を国土交通省から受託をして行っておるものでございますが、平成27年度につきましては、西坂部町にごございます川向山添遺跡、横谷遺跡の1次調査と、川向山添遺跡の2次調査を行う予定でございましたが、国土交通省の事業進捗により、川向山添遺跡の2次調査を実施することができませんでした。そのために、それに係る発掘費用を減額させてい

たきます。

また、北勢バイパス埋蔵文化財整理作業所というのをリースで借りてきておりましたが、平成27年度新規リースを行いましたため、その入札差金についても不用額ということで減額補正をさせていただきます。

補正額につきましては、2500万円の減額ということで、その財源につきましては、全て国土交通省からの受託費となっております。

以上でございます。

○ 川森スポーツ課長

スポーツ課、川森でございます。よろしくお願いいたします。

10ページのほうをごらんいただきたいと思います。四日市ドーム整備事業費でございます。内容につきまして、四日市ドーム2階に大きく張り出すような形で窓がついていると思いますが、そこにロールスクリーンという、光を遮ることができるスクリーンを設置してございますが、これがドームが既に20年を経過しておりまして、一部の修理で済むかというふうに見ておりましたが、実際に調査をしてみますと、かなり大がかりな工事になっていくことが判明しました。

また、一方で、三重とこわか国体の女子テニスの会場ということになります。種目団体の正規視察が先日行われたところでございますが、その中で、ロールスクリーンからのすき間から光が漏れると。それによって、プレーに影響が出るという指摘を受けておりまして、改修方法についても全面的に見直したいというふうに考えているところでございます。したがって、ドームスクリーン工事費の510万円を減額させていただきたい。非常用発電機蓄電池更新工事の入札差金とあわせて、600万円の減額補正をお願いするものでございます。

説明は以上でございます。

○ 下里教育施設課長

続きまして、繰越明許費でございます。先ほどと同じ11ページをお願いしたいと思います。これは災害用汚水槽整備事業でございます。繰り越し理由としましては、これは公共下水へ切りかえるものと、便槽自体を災害時の便槽にするという二つの工事がございまして、公共下水のほうの切りかえは今年度終わりましたが、便槽のほうは1回目が平成27年

11月、2回目が平成27年12月に入札を行いました。2回とも参加者がなく不調に終わったということで、中身を精査しますと、業者さんがこの間、現場監督さんを拘束されるというのが非常に辛いということで、いろいろ調達契約課とも相談しまして、業者さんの比較的あいている時期というのが年度当初ということですので、もう一度同じ工事を平成28年度に繰り越しして、再度入札を行いたいということで、予算としましては、下水道切りかえ工事が345万6000円ということで、当初予算が1070万円、残額724万4000円を丸々繰り越したいと。これは未契約でございます。

続きまして、12ページでございます。これは内部東小学校裏山法面復旧工事でございます。これは関係機関との調整に時間を要したというのは、学校の運動会が秋にあるということで、ここは運動場をどうしても通過して工事に入るとということで、なかなか運動場を通過して、秋の運動会まで完成するというのが非常に難しかったということで、28年度当初に繰り越しして、入札を行い……。入札は既に終わってしまっていて、業者さんも決定しております。28年度におきましては、当初予算1620万円から前金の部分の4割を差し引いて、残額1017万4000円を契約繰り越したいということです。

以上でございます。

○ 伊藤嗣也委員長

ありがとうございました。以上でございますか。

説明はお聞き及びのとおりでございます。委員の皆様、ご質疑がございましたら、ご発言願います。

○ 樋口龍馬委員

よろしくお願ひします。予算常任委員会資料10ページをお願いします。国体に向けてのドームの補修整備ということで――補修整備ではないのか――ロールスクリーンを張り込んで、直射日光を遮りながら、試合を円滑に進めるためにということなんです。国体ともなると、モニターのほうも活用することが考えられるんですけども、相当弱ってきているもので、あれは金額も多分、こんな金額では済まないの、一定、計画を立ててかなあかんのではないかなというふうに思うんですが、四日市ドームの整備事業、今後の予定みたいなものがあれば教えてほしいです。

○ 川森スポーツ課長

予定といいますか、全て決まっているわけではございませんけれども、現在のところ、人工芝のほうの張りかえというのが必要になってくるというふうに考えておまして、そちらのほうを、今後、国体までに張りかえというのを計画しているところでございます。

○ 樋口龍馬委員

後ろのモニターのほうはどうか。

○ 川森スポーツ課長

今、調子が悪いという状況はございます。私どもも先日、スポーツフェスティバルで使ってはいましたが、全く使えないという状況ではないんですけれども、かなり劣化も進んでおりますし、また、供給する部品等が今後なくなってくるということもありますので、そのあたりは一度検討させていただきたいというふうに思っています。

○ 樋口龍馬委員

あと、音響も、挨拶なんかをしても全然聞こえない状況になっていますので、ぜひ対外の方たちをお招きしていく前に、どんな整備が必要なのかという整理をかけていただきたいなということをお願いしまして、次、もう一個、よろしいですか。

○ 伊藤嗣也委員長

どうぞ。

○ 樋口龍馬委員

次は、2月補正予算参考資料という冊子のほうの29ページ、中学校給食です。見込みを下回った要因について、簡単に総括をお願いします。

○ 上浦学校教育課長

先ほど申し上げましたように、いろいろな改善を加えています。例えば、味のほうについては、以前よりかなりよくなっているんじゃないかなと思うんですけれども、ただ、なかなか上がっていかない。その要因としては幾つか考えられるんですけれども、ちょっと

宣伝が足りなかったんじゃないかなと。というのは、最初はこれ、各学校、保護者に対しても、こういう始まる時にかなりご説明申し上げたんですけども、実際、こうやって何年かたってきますと、もうわかっていらっしゃるものというふうなことで、少しそういうところを怠っていたかなと。これは中学校給食検討会のほうでも意見が出ましたので、このあたり、冊子もつくって、どんどんPRしていきたいということです。

あと、予約システムのほうについて、これはいつも言われるんですけども、なかなか当日予約等ができないと。いわゆる注文の利便性が余りよくないというふうなことで、これ、今、1週間前しか予約ができないんですけども、その辺、もう少し縮めていたらなというふうなことで、ちょっと使いにくいんじゃないかなということも言われておりますので、そのあたりのことも改善の余地があるのかなと思います。

○ 樋口龍馬委員

中学校給食検討会の協議会もあるので、余りここでは踏み込まないですけども、うちも子供が3人いて、小学校から中学校に上がっていきます。今、中学校3年生で、来週、うちの娘、受験なんですけどね。

(発言する者あり)

○ 樋口龍馬委員

ありがとうございます。頑張ります、娘が。やっぱり上がって、どうするという話にはなるんですよ、娘2人に。そうすると、小学校のとき……。以前と比べて、今のデリバリー給食がおいしくなったのは事実だと思うんです。我々が今、喫食して、おいしくないと感じない、これも事実だと思います。ただ、実際に小学校に通って、小学校の食缶給食を食べている子たちが中学校に上がって、小学校のときのほうがおいしかったというのは、これはまた事実ですよ。そういうことはしっかり検討会の中でも押さえていただいていると思うので、オーケーズデリカがおいしくなったかどうかなんかもよくて、オーケーズデリカが食缶給食よりおいしいかどうかのほうが問題なんじゃないかな。そういうところに視点を置いていかないと、システムの云々よりも、子供自身が食べてみて、愛情弁当にすると好きなものしかとらなくなるとかいうけれども、子供たちにしてみたら、給食のほうが弁当より好きっていう子もまたおるわけですよ。小学校のときはおったわけで

す。そういうことは真摯に受けとめる必要があるんじゃないかなということ、これは今、上浦課長から所感をいただいたので、私も所感で返させていただいて、この先の議論というのはあり方検討会の協議のほうでやっていきたいと思います。

終わります。

○ 伊藤嗣也委員長

もう少しまともな、まじな答弁をしてくださいね、協議会ときは。先に言っておきます。

ほかにまだありますか。

○ 石川善己副委員長

確認だけ、確認というか、教えていただきたいんですけど、自然教室事業費、8ページ、見込み額、単価4万4000円ということによっていただいて、3万8340円の契約額ということなんですけれども、参考に聞きたいんですけど、去年の実績の単価が幾らだったかだけ教えていただけませんか。

○ 廣瀬指導課長

26年度、片道料金、3万2400円でございます。中日とありますが、中日は1万5984円でございます。

○ 石川善己副委員長

ありがとうございます。別に否定とかではなくて、ちなみに幾ら実績があつて、ことし、どのくらいを見込んでこの4万4000円になったのかが知りたかっただけなので、ありがとうございます。

○ 伊藤嗣也委員長

少しこの件、私も聞かせていただきたいんですが、バスの種類はどういうバスですか。

○ 廣瀬指導課長

市内の乗り合いのバスを調達しております。

○ 伊藤嗣也委員長

実は、座れる人が、子供がすごく少なくて、立っていくわけですよ。けがしそうになったという保護者からの連絡もいただいております。ちゃんと一般道を走っていくんで、座れるようなバスを考えられなかったのか。本当にほとんどの子が立っていくんですよ。だから、危ないと思う、急ブレーキ踏んだときなんか想定したら。その辺は減額補正するよりも、バスを座れるようにすることは考えられなかったんですか。

○ 廣瀬指導課長

座席が子供たちの人数分あるものを、必ずバス会社が配車をするというような契約には、今、なっておりませんので、今後、そういったバスを利用するのであれば、単価のところもかなり問題になってくるので、今後、検討はまたさせていただこうと思います。

○ 伊藤嗣也委員長

事業として実施する以上、安全に子供たちが乗って、そういう勉強をしていただくという事は、これは当然の責務だと思いますので、よろしくお願いします。

他にございますか。

○ 土井数馬委員

補正予算参考資料の第8号なんですけれども、28ページの要保護準要保護児童就学援助費と、中学校のは名前が違うんですけれども、特別支援教育就学奨励費ですけれども、これは何で名前が違うのかちょっとよくわからないのが一つと、小学校のほうは認定者数ということは、認定をするわけですか。中学校のほうは対象生徒数が見込みというので、この辺の、どういうふうに比べてみえるのか。一般質問でちょっとこれとは違いますけれども、お尋ねしましたけれども、そういうのが知られるのが嫌で断るような家庭というのはあるのかないのか。直接お渡しするのか、その辺もお聞かせいただきたいと思いますけれども。

○ 上浦学校教育課長

まず、28ページの、これはいわゆる就学援助と言われるもので、今、生活扶助費の1.

3倍を基準にして、それよりも低い方に対して学用品等を援助しているというふうなことでございます。四日市の場合は、1.3倍を超えても、民生委員さんのご協力を得て、認定審査会というのがあるというふうな制度になっています。ですので、そちらのほうが、まず、就学援助費ということです。

そして、就学奨励費というものですけれども、これは特別支援学級の子供さん、その保護者を対象にして、いわゆる学用品費であるとか、そういうものを援助するんですけれども、それだけじゃなくて、例えば、通常学級にいらっしゃる子供さんの中で特別支援を必要とする方、いわゆる通級学級に通っている人の通学費、こういうものを援助していくというふうなもので、この辺のところちょっと対象が違うというふうなことでございます。ですので、後段の部分は特別支援教育のほうになっていまして、前段のほうは生活扶助というんでしょうか、困窮家庭のほうに援助するというふうなところで違うということです。

この二つの援助費につきましては、まず、最初のほうは、いわゆる認定、この人は就学援助を受けると。準要保護ということで、認定を受けたら、そのお金を年4回、振り込ませていただくということになっています。

それから、特別支援教育就学奨励費のほうは、これは対象、要は、要請があれば、申請があれば、ここに対して援助していくということになっていますので、これも振り込みをさせていただいているということでございます。

○ 土井数馬委員

小学校の方もここに申請されるわけですか。それで、それを受けて、認定をしていくと。中学校も同じようなことを言ってみえましたがけれども、どう考えても同じような気はしまさずけれども、申請しなかったら認定はしないわけですね。だから……。

(発言する者あり)

○ 土井数馬委員

ちょっとお待ちください。余り人に知られるのが嫌だから申請しない、そういうところには出さないということよろしいわけですね。

○ 上浦学校教育課長

就学援助のほうは、これは学校のほうから申請してくださいというふうに言うんですけども、実際、申請をしていただけないところもございます。それは、1年前の収入によって決めているということで、そのあたりの個人情報の件でためられるという方もいらっしゃるということです。

つけ加えになるんですが、こちらのほうは特別支援とかいうことではなくて、通常の子供さん、通常学級にいる子供さんもこちらのほうは申請して、認定をするというふうなことになっています。

○ 土井数馬委員

学校自体としては、学校教育課としては、どの子がそういうというのはもうつかんでいくわけですね。でも、申請がなかったら、もういいだろうということになるわけですけども、実際には、家庭的には困っているんじゃないかと思imasるので、やはりいかにしてうまくそういう援助費が渡されるか。せっかくある制度ですので、やはり利用できるような方策を考えていただきたいなと思imasるので、これも要望しておきます。

以上です。

○ 伊藤嗣也委員長

他にございますか。

○ 中川雅晶委員

今の土井委員の、要保護準要保護児童就学援助費ですけど、申請は児童を介して申請してくださいでしたか。

○ 上浦学校教育課長

これは児童を通じて案内を申し上げるんですけども、申請のほうは保護者から申請書を学校のほうに届けていただくと。これは児童を介する場合もござimasし、保護者に持ってきていただく場合もあるというふうなことござimas。

○ 中川雅晶委員

これ、児童を介して、何かに入れて先生が回収する場合と、直接保護者が持ち込むということですか。

○ 上浦学校教育課長

はい。

○ 中川雅晶委員

郵送とかではなくて、持ち込むということですか。この辺も少し工夫する必要はあるのかなと。例えば、私が想像するには、なかなか、先ほど土井委員が言われたように、ためらうという部分は、例えば、児童を介して、自分の子供に対して「これ」と言うのが少しためらう部分があったりとか、わざわざこれを本人が学校に持って行って、出向いて申請をするというところのためらいとかがあるのであれば、そういう返送とか、郵送とかでできるようなシステムも少し考えていくことが、必要なところに届けると。これ、あくまでも対象の子供に対する就学援助なので、そういうことも工夫したほうがいいのかと、今、お話を伺っていて。行く行くはマイナンバー制度とかがもっと整備されれば、対象の方はこちらからということになる可能性もあるかなと思うんですけど、その辺もぜひ工夫いただくような検討をいただけるかどうかだけ答弁いただければ。

○ 上浦学校教育課長

児童生徒に対する配慮というのは大変大事なことだと思いますので、今の方法について改善すべきところがあれば、そういう、今、委員おっしゃっていただいたような視点で改善を加えていきたいと思います。

以上です。

○ 土井数馬委員

年4回に分けて振り込むというふうなことがあったんですけども、申請は年に当初1回だけですよね。4回するわけではないですね。じゃ、それで結構です。ありがとうございます。

○ 中川雅晶委員

あと、笹川中学校の改築整備事業費の件で、予算常任委員会資料6ページのところです。先ほど課長から説明いただいて、入札差金のマイナス分と、プラスが出てきた部分というところで、差し引き1500万円、市債からその分は減額修正するというのはわかったんですけども、もう一度、どのところの工事の部分がプラスになっていてというところを、資料で結構ですので、提出だけお願いできませんか。

○ 伊藤嗣也委員長

採決に影響は。

○ 中川雅晶委員

ありません。

○ 伊藤嗣也委員長

教育施設課長、大丈夫ですか、資料。

○ 下里教育施設課長

出させていただきます。

○ 伊藤嗣也委員長

お願いします。

他にございますか。

○ 森川 慎委員

済みません、ちょっと戻るんですけども、就学支援、援助の件で、両方とも見込みを上回っているんですけども、これはまだまだ今後も上回っていくというような、考えているよりも、思ったより経済的な環境なんかが悪かったとか、そのあたり、どうですか。もうちょっと教えてほしいです。

○ 上浦学校教育課長

就学援助費につきましては、先ほどちょっと申し上げたんですけれども、平成24年度がピークでございます。一番多かった。そこから少しずつ減ってきているんですが、本年度少し、昨年度よりふえたというふうなことです。ですので、経緯としては、ちょっと減ってきたんですが、ちょっとふえていると。今、そんな状況ですので、今後、これ、気をつけて見ていかなければいけないというふうに思っています。

以上です。

○ 森川 慎委員

ちょっと減ってきている、ちょっとふえたって、何か原因って思い当たるようなところがあったら、感覚でも結構です。何か原因が思い当たるようなところがあったら、ちょっと教えていただきたいですけれども。

○ 上浦学校教育課長

子供の貧困であるとか、生活の貧困である、そういう問題が大変出てきまして、実際、私としては、24年度から減ってきたというのがちょっと不思議な感じで、もっともしかしたらふえているんじゃないかなと思ったんですが、実際、ピークは24年度というふうなことになっています。ただ、今後、生活が苦しくなってくるとか、そんなことがあることも予想されますので、今後、ふえてくるかもしれないというようなことは予想されるんじゃないかと思います。

○ 森川 慎委員

ありがとうございます。子供が貧困って、本当に一番つらいことなので、ぜひいろいろ注視していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

終わります。

○ 伊藤嗣也委員長

3人の委員の方が心配されておりますので、十分その辺調査して、早いところ手を打ってください。

他にございますか。

○ 小川政人委員

予算常任委員会資料の4ページの退職手当なんだけれど、退職者数は見込みよりふえてるんで、金額は減っている。多分、勸奨退職と普通退職との金額が違うんだろうと思うんだけど、普通退職の人たちがふえた、この退職の原因、理由というのがどんな。

○ 松岡教育総務課長

普通退職がふえた理由というところでございますけれども、若年の方が退職をされるのか、あるいは、年度途中で病気のため退職をされるということが今年度起こってまいりましたので、当初見込みより普通退職のほうが多かったというところがその点に当たるかなと思います。

○ 小川政人委員

ざっぱな説明じゃなくて、例えば、婚姻とか病気とか。5人ぐらいやでわかるやろが。

○ 松岡教育総務課長

お一人は病気を理由に年度途中で退職をされたということと、あと、幼稚園教諭の退職はご結婚、あるいは出産等による理由ということと、もう一つは、前任の田代教育長の年度途中の退職がございましたので、その分がここに計上されているというところになってまいります。

○ 小川政人委員

田代教育長も普通退職か、あれ。そうか。途中で。

でも、結婚とか出産って、前もってわからへんのかな。そんなに狂うのかね。

○ 松岡教育総務課長

ご結婚であるとか出産、届け出をいただくと、想定はできるんですけれども、その後、出産を経られるとか、育児休業等で休暇をとられるケースが多うございますが、そういった中で、休暇をとらずに区切りをつける方が出てまいりますと、普通退職という結果に、個人差の判断でつながっていくというものでございます。

○ 伊藤嗣也委員長

よろしいですか。

他にございますか。

関連。

○ 石川善己副委員長

済みません、ちょっと外れちゃうかもわからないんですけども、今の退職のところの予備というか、見込みの部分で、参考で教えてほしいんですが、今、実際に休職をしている教職員の人数ってどのくらいあるかだけ教えてもらえますか。

○ 松岡教育総務課長

教職員の人数をお尋ねいただいたということでよろしいですか。

(発言する者あり)

○ 伊藤嗣也委員長

少しお待ちください。

もう一度、副委員長、お願いします。

○ 石川善己副委員長

参考にしたいので、今、休職をされている教職員の人数がわかれば知りたいんですけどいう意味だったんですけども。

○ 小川政人委員

違う、それは。これは職員で、教員とは違う。幼稚園は市の職員だけど、小中学校は。

○ 石川善己副委員長

ああ、そうか。

○ 伊藤嗣也委員長

取り消しで。副委員長、取り消しでございます。

○ 小川政人委員

聞くだけ。答えてくれたら、聞いたらええ。

○ 伊藤嗣也委員長

副委員長、どうされますか。

○ 石川善己副委員長

もし答えていただけるなら。

○ 伊藤嗣也委員長

答弁、可能でしょうか。

○ 石川善己副委員長

無理ならいいです。ごめんなさい、ちょっと勘違いをしていました。

○ 伊藤嗣也委員長

可能な範囲で結構でございます。

○ 松岡教育総務課長

ちょっと今、正確な人数はお答えできませんので、もし必要があればまたお伝えしますけれども。

○ 石川善己副委員長

もしあれなら、ペーパーでも結構ですので。

○ 松岡教育総務課長

わかりました。

○ 伊藤嗣也委員長

そしたら、後ほど資料を提出でよろしくお願いします。

他にございますか。

(なし)

○ 伊藤嗣也委員長

なしでよろしいですか。

質疑もないようでございますので、これより討論に移ります。討論がございましたら、ご発言願います。

(なし)

○ 伊藤嗣也委員長

別段ないようでございますので、採決に移りたいと思います。

全体会審査に送るべき事項につきましては、採決の後に確認させていただきます。

それでは、これより分科会としての採決を行ってよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 伊藤嗣也委員長

別段ご異議、反対意見もないため、簡易採決により行います。

議案第107号平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第1項教育総務費関係部分、第2項小学校費、第3項中学校費、第5項社会教育費、第6項保健体育費、第2条繰越明許費の補正関係部分につきましては、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 伊藤嗣也委員長

異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第107号 平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第1項教育総務費（関係部分）、第2項小学校費、第3項中学校費、第5項社会教育費、第6項保健体育費、第2条繰越明許費の補正（関係部分）について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 伊藤嗣也委員長

最後に、全体会へ審査を送るべき事項について、委員の皆様からご提案がございましたら、ご発言願います。

(なし)

○ 伊藤嗣也委員長

それでは、全体会には送らないことといたします。

以上で議案第107号平成27年度四日市市一般会計補正予算（第8号）について、教育委員会所管部分の審査は終了といたします。

理事者入れかえをお願いいたします。再開は50分でお願いします。

10：41 閉議